

# ふるさとふちゅう

## 【第12回】西国街道を歩きませんか（7）

# 再発見

県道151号府中海田線の永田交差点から直進して来た道は恵比寿神社の前で大きく左に曲がります。この曲がり角は『芸藩通志府中村図』や『中国行程記』の図でも同様の角度で描かれています。当時の人にとっても印象深い曲がり角だったでしょう。

この辺りは昭和52（1977）年の住居表示が行われるまで、浜田と言われていました。かつての海岸線はもつと山側で、地先の浜地を埋め立てたのでこの地名になったと言われています。特に曲がり角付近は三軒屋と呼ばれるいました。江戸時代初期に浜田屋など大きな家が三



西国街道の道幅の道路、直進すると府中大橋

軒あったからと言われています。『中国行程記』では、一面の田の中で、街道沿いのこの一角だけに家並みが描かれています。直進してやまさか薬局を過ぎ、浜田本町3番の信号を越えると、道幅が狭くなります。広島藩は寛永10（1633）年に西国街道の道幅を二間半（約4.5m）としました。この辺りは、かつての西国街道の道幅を伝えていく場所と言えます。さらに進むと、右側に大通会館があります。大通という地名は、昭和55（1980）年の新幹線開通により高架下の道路が府中一の大通りになったことから付いた新しい地名です。大通はかつての茂陰の一部・入川・三角と呼ばれた地域です。さらに進むと茂陰トンネルから町役場に向かう県道272号上宮町新地線に出ます。横切り直進すると目の前が府中大橋です。『芸藩通志』では、この辺りは「大堤」と記されています。江戸時代初期に干拓された茂景（陰）新開の大堤にちなんだ地名です。府中大川に面して大堤を築き、内部の湿地を埋め立てたのでしよう。享保9（1724）年の『安芸郡府中村差出帳』では「茂陰新開 面積13町3反8畝」とあります。約13万平方メートルで、茂陰・浜田の多くが干拓で出来上がったことになりました。菅原守氏が昭和7（1932）年に著した『府中荘誌』では「道路の両側に松樹を植え付け、陸路上下りの旅人、殊に諸侯の参勤交代になくはならない日陰となり、現在の字茂陰は殊に老樹繁茂し」ところと記しています。なお、明治3（1870）年の『安芸国安芸郡郷村帳』では府中村には「往還並木」が316間（約568m）あったと記しており、この辺りには松並木があったと考えられます。

府中大町文化財保護審議会委員 菅 信博

パッとカンタン!

## 朝パッ君のかんたんレシピ

問朝パッ君ネットワーク ☎286-3257

他の白身魚でもおいしいよ！  
アレンジしてみてくださいね♪



### レモンで作ってもおいしい♪ 鮭のゆず味噌焼き



レシピ提供：府中中央小学校

#### 材料

- ・ 鮭（切り身）：4切れ
- ・ 塩：小さじ1/5
- ・ ゆず（皮）：少々
- ・ ゆず（果汁）：小さじ1/2
- ・ 味噌：大さじ1
- ・ 酒：大さじ2/3
- ・ みりん：小さじ1/3
- ・ 水：大さじ1と1/3
- ・ 砂糖：小さじ2
- ・ ブロccoli（塩ゆで）：お好みの量

#### 作り方

- ① 鮭に塩を振り、両面を焼く。
- ② ゆずの皮をおろし金ですりおろし、果汁を絞る。
- ③ 味噌を酒、みりん、水で溶かしておく。
- ④ ③を煮立て、砂糖を加えて溶かし、②を加える。
- ⑤ ①に④をかける。
- ⑥ ⑤に塩ゆでしたブロッコリーを添える。